

# 相双「食」と「ふるさと」新生運動ニュース

No.2 2014年9月  
福島県相双農林事務所

## メニュー

- ◆新地町の原木しいたけ（施設栽培）の出荷制限解除について
- ◆管内のモニタリング検査状況について
- ◆海岸堤防の復旧について
- ◆平成26年度そうそう・6次化ネットワーク交流会
- ◆県外応援職員の紹介 ほか

## 新地町の原木しいたけ（施設栽培）の出荷制限解除について（森林林業部）

新地町で出荷が制限されていた原木しいたけ（施設栽培）は、平成26年7月11日、出荷制限が解除され、仙台市中央卸売市場へのお荷が再開されました。

今回の出荷制限解除は、きのこの生産工程管理が適切に行われ、生産されるきのこの安全性が確認された生産者個人に対して行われるもので、新地町では菊地久光さん1人となります。

出荷物には、産地の市町村名と生産者名が表示されたシールが貼ってありますので安心して御購入いただけます。



菊池さんが生産したしいたけ

## 管内のモニタリング検査状況について（農業振興普及部）

農作物の緊急時環境放射線モニタリングは、穀物（水稻は全袋検査のため除く）、園芸作物（野菜、果物、根菜）、牧草、飼料作物で行われています。

相馬地方の園芸作物については、平成26年4月～7月の間324点のモニタリングを実施し、基準値（100Bq/kg）超過はありません。

また、飯館村の二枚橋地区（避難指示解除準備区域）にある施設栽培のイチゴが7月31日に市場へのお荷再開を果たしました。県及び飯館村などで4回検査し、すべて検出限界値未満でした。今後も確実な検査と速やかな結果の公表により、営農再開を支援してまいります。



市場へのお荷再開を果たしたイチゴ（飯館村）

## 海岸堤防の復旧について（農村整備部）

相双農林事務所では20箇所（約20km）の海岸を管理しています。このうち、東日本大震災では19箇所の海岸で堤防の決壊や消波ブロックの飛散など、甚大な被害を受けました。

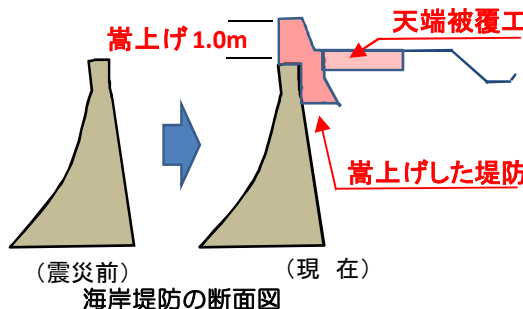
海岸堤防は、高潮による浸水や波浪による浸食を防ぐ重要な役割を持っていることから、震災直後から応急的な仮設堤防設置を行い、準備が整った場所から本格的な復旧工事を進め、これまでに高萩（広野町）、蒲庭南・古磯部（相馬市）の3箇所で工事を完了しています。

今回は、完成間近の南相馬市萱浜地区を例に堤防の構造について紹介します。

萱浜地区では、堤防の高さを震災前より1m高上げし、天端コンクリートを厚くするなど、粘り強い構造となっています。また、海側には波の力を弱めるため、消波ブロックを設置しています。



震災前の海岸堤防



（震災前） 海岸堤防の断面図 （現在）



工事が完了した萱浜地区（南相馬市）

**平成26年度そうそう・6次化ネットワーク交流会（企画部）**

相双地方の地産地消の取組を推進するため、「地域を『食』から考える」をテーマに交流会を開催しました。

東京農業大学名誉教授の小泉武夫先生をお招きして「発酵食品による健康づくり～これからの和食とは」と題した講演を行い、講演後には、相双地域で6次化商品の開発・生産に取り組んでいる事業者とのパネルディスカッションを行い、「『食』からはじめよう。地域産業の復興」をテーマに意見交換をしていただきました。

また、講演開始前と休憩時間に、相双地域の6次化商品の試食会を行いました。試食の参加者には、アンケートにご協力をいただき、味や食感、パッケージデザイン等の感想を記入していただきました。出展事業者の今後の商品開発や改良に役立つものと期待されます。

講演会には約280人の来場者があり、小泉先生は、日本の豊かな自然のなかで育まれた水や和食のすばらしさ、地元食材を使った給食を食べ続けた子供たちは郷土愛が強くなるなど、全国の具体例を示しながら、「食」から子供たちを育てていくべきだと語り、これまでの研究成果などから得られた食と健康との深い結びつきや、みそ汁などの発酵食品が放射線障害に効果があることなどについて冗談を交えながらおもしろく、わかりやすくご説明をいただきました。

（平成26年8月24日、サンライフ南相相馬にて開催）



試食会の様子



講演会の様子



小泉先生の講演



パネルディスカッションの様子

**富岡町の水稲実証栽培（企画部）**

平成26年7月25日（金）富岡町ふるさと生産組合の水田に、県内外の避難先から12名の組合員が集まり、草刈りや電気柵（鳥獣害対策）設置作業が行われました。

作業開始に先立ち双葉農業普及所職員による稲の生育状況確認と今後の管理に関する注意点が説明されると、組合員の皆さんは熱心に耳を傾けておりました。

ふるさと生産組合では、富岡町内での営農再開を模索するため、平成24年度から除塩や除染効果の検証と農業生産物のエネルギー化を目指して、九州大学と協力してデントコーンやコーリヤンなどバイオエタノール用作物の試験栽培を開始し、平成25年度はコメもバイオエタノール用作物として試験栽培を実施しました。そして、平成26年度は、1.2haの水田に「天のつぶ」「こしひかり」「こがねもち」を食用として実証栽培に取り組んでいます。渡辺組合長は、「自宅は津波で流され土台のみとなったが、拾われた命だから何でもできる。今後も町の将来のため自分達でできることを行っていきたい。昨年度収穫した米は、全て基準値未満だったが試験栽培のため全て処分しなければならなかった。今年は豊作になりそうだ、収穫した米はぜひ多くの人に食べてもらいたい。」と意気込みを語ってくれました。



**ふくしまから はじめよう。  
「食」と「ふるさと」新生運動相双地方推進本部総会（企画部）**

県では、標記運動を推進するにあたり、地方の実情に応じた運動の推進を図るため、各農林事務所ごとに地方推進本部を設置しています。相双地方では、昨年12月に設立されました。

今回の総会には、生産から流通・消費に至る関係団体から約50名が出席し、農林水産業の復興・再生に向けた各種取組実績の報告と平成26年度事業計画の説明、意見交換を行いました。

出席者からは、以下の意見がありました。

- テレビや新聞社などの報道関係者を構成員に加えるべきだ。
  - 女性の構成員をもっと増やすべきだ。
  - 女性の視点、特に子どもを持つ母親の視点が大事。
  - 地場産魚介類を使用したいが、ツブ・タコだけではどうにもならない。地元の食材がないから安心というのはおかしな事だ。等
- 今後の活動にこれらの意見を取り入れ、より良い運動にしていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いします。

（平成26年7月14日、南相馬合同庁舎401会議室で開催）



総会の様子

**平成26年度相双地方推進本部に関連するイベントの開催計画**

実施月日	取組名	開催内容	開催場所 (市町村名)	構成員 (実施主体)	問い合わせ先	事前 申込	入場 料
平成26年9月28日	おいしい ふくしまいただきます！ キャンペーンinふたばワールド	県民の皆様へ、川内村産農林水産物の美味しさや安全性を再認識していただくため、消費拡大キャンペーンとパネル展示等を行います。	ふたばワールド 2014会場(川内小学校)  (川内村)	相双農林事務所	相双農林事務所 引地力男  電話 0244-26-1153	不要	無料
平成26年9月21日、11月16日	農業を諦めない相双地区農業青年クラブA. C. ハマーズ2001PR販促イベント	イベント内に相馬地方の青年農業者の農産物を販売する場を設け、安全性のPRを行います。	埼玉県  (さいたま市)	相馬地方青年農業者組織「A. C. ハマーズ2001」	事務局長 只野 智由  電話 090-8766-1432	/	/
平成26年10月18日	南相馬健康福祉まつりにおける農産物のPR活動	イベント内に相馬地方の青年農業者の農産物を販売する場を設け、安全性のPRを行います。	福島県  (南相馬市)	〃	〃	/	/
未定	農業を諦めない相双地区農業青年クラブA. C. ハマーズ2001PR販促イベント	イベント内に相馬地方の青年農業者の農産物を販売する場を設け、安全性のPRを行います。	宮城県  (仙台市)	〃	〃	/	/
10月	鹿島区産業文化祭	水産物の試食、販売を行います。	南相馬市内 (南相馬市)	相馬双葉漁業協同組合	相馬双葉漁業協同組合  電話 0244-37-2200	不要	無料
10月31日～11月2日	東京海洋大学海鷹祭	水産物の試食、販売を行います。	東京海洋大学 (東京都品川区)	〃	〃	〃	〃
11月	相馬市民祭り	水産物の試食、販売を行います。	相馬市民会館 (相馬市)	〃	〃	〃	〃
11月	浪江町十日市	水産物の試食、販売を行います。	二本松市内 (二本松市)	〃	〃	〃	〃
11月	みなみ北海道グルメフェア in 埼玉	水産物の試食、販売を行います。	埼玉県 (埼玉県)	〃	〃	/	/
11月	流山市民祭	水産物の試食、販売を行います。	流山市内 (流山市)	〃	〃	不要	無料
11月	新地町産業祭	水産物の試食、販売を行います。	新地町内 (新地町)	〃	〃	〃	〃

**第7回「今の福島を見に行くモニターツアー」開催（企画部）**

平成26年7月31日（木）、原発事故の風評払拭に向けて実施しているモニターツアーの参加者が川内村を訪れました。ツアーは、平成23年度から県内各地で6回おこなわれ、7回目となる今回は、首都圏から募集した親子28名の参加がありました。

一行は、先ず「いわなの郷」を訪れ、村職員から帰村についての説明等を受けた後、名物のいわな釣りをを行い、釣り上げたいわなを川内産の野菜やしいたけなどとともに味わいました。その後、「放射性物質検査施設」、「川内高原農産物栽培工場」、「かわうちの湯」を訪問しました。

参加者からは、「今度は、泊まりでゆっくり来てみたい」との感想もあり、川内村を満喫していただけたようです。



いわな釣りの様子



焼きたてのいわなの昼食



記念撮影

**県外応援職員（福耕支援隊）の紹介**

農山漁村地域復興基盤総合整備事業 八沢地区は、相馬市及び南相馬市鹿島区に跨がる地域であり、明治後期から昭和初期にかけて八沢浦干拓事業により形成された水田地帯でした。しかし、東日本大震災により甚大な被害を受けました。

津波による集落流出、地盤沈下と排水機能喪失による湛水。先が見えない中、遠く四国 愛媛県から平野貴司さんが福島県の支援に来てくださいました。着任1年目、八沢地区採択に向けた地元調整や、関係機関との協議調整を進め、何度も大きな壁にぶつかりながら、一步ずつ前に進み、平成25年度には工事発注に向けた、設計～債務工事設計書作成、そして今年6月に八沢地区債務工事が契約・着工へたどり着きました。

平野さんは現在3年目になりますが、1年目の採択に向けた関係機関との協議調整が最もつらい時期だったとのこと。しかし、膨大な業務を抱えても、つらいそぶりを見せずにこなしてしまう愛媛県 平野さんの福島復興への想い！福島への愛！ありがとうございます。



説明会の様子



着工前の八沢地区



福島県相双農林事務所 企画部 地域農林企画課  
〒975-0031 福島県南相馬市原町区錦町一丁目30番地  
Tel : 0244-26-1153 Fax : 0244-26-1181  
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36260a/>  
E-mail [kikaku.af06@pref.fukushima.lg.jp](mailto:kikaku.af06@pref.fukushima.lg.jp)